

見てみよう、聞いてみよう

「はやぶさ」大講演会

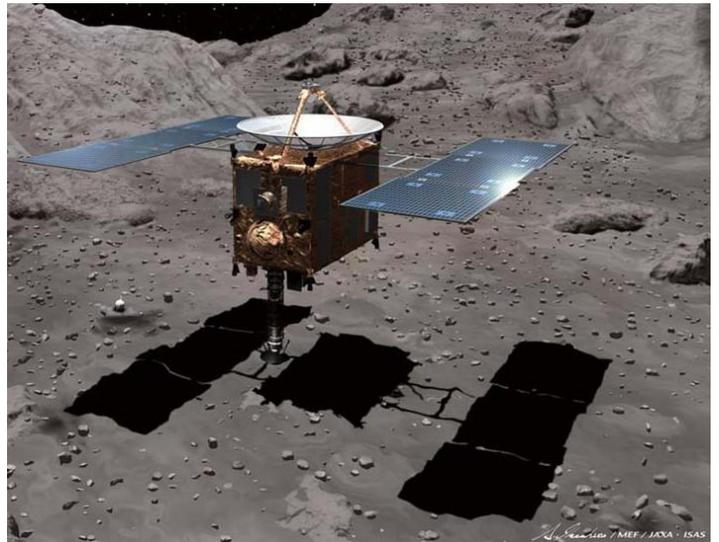
今年の6月13日に小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰ってきて、日本中を感動のうず巻きに巻き込みました。2003年5月9日に鹿児島島の宇宙空間観測所から打ち上げられてから7年。長い旅路では、いくつかの故障に出会いながら奇跡的に回復しました。



(小惑星イトカワ 540m×270m×210m
約8km 上空より撮影, JAXA より)

探査ロボット「はやぶさ」は、まるで科学者・技術者みんなが育てた子供のように、なぜか愛着を感じさせます。しかも、小惑星イトカワの微粒子をたしかにカプセルに回収してきたことが11月17日に分かりました(宇宙航空研究開発機構)。今年の重大ニュース(科学)の上位に入ること、まちがいありません。

さて、そのカプセルをオーストラリアのウーメラ砂漠に回収に行き、超高感度カメラで大気圏突入の瞬間を撮影した方は、本学の基礎理工学特別講義1の飯山青海先生です。



(タッチダウンの図, (c) Akihiro Ikeshita)

オレンジ色に燃える尾を引きながら大気圏に突入する映像は、TVで何度も放映されました。この感動シーンをいま一度再現してもらい、その他お手持ちの映像をふくめて「はやぶさ」にまつわるお話を飯山先生にさせていただきます。夢が現実になったお話、そしてもっと夢が広がるお話——今年をしめくくるのにふさわしい講演会です。(左の写真は //www.nec.co.jp/ad/hayabusa/ より)

(工学部「基礎理工学科」, 大学院「総合電子工学専攻」共催)



会場：大阪電通大 J 号館 3F (J308)

参加ご自由 (無料)

日時：12月17日(金) 16:10 開場, 講演 16:30~17:45

講師：飯山 青海 氏 (大阪市立科学館学芸員, 本学非常勤講師)

<プロフィール> 1971年生れ。新潟県出身。京大理学部卒業。南阿蘇ルナ天文台
研究員, 姫路市立「星の子館」天文担当を経て現職。日本流星研究会幹事など。